

名古屋芸術大学グループ 通信

Feature



大学×企業×地域社会
産学官協同プロジェクト

Entexit

エンタジット

- 2009年度 オープンキャンパス
- 2010年度入試日程
- アート&デザインセンター
2009/2010展覧会スケジュール



Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OG

後悔しないように、精一杯に
宮本未央

NUA-STUDENT

「まだまだ隙がありすぎて満足はしてないですよ」
美術学部 工芸(陶) 選択コース 4年 小澤直樹
同居する二面性の魅力
美術学部 工芸(ガラス) 選択コース 4年 前田真喜子



News/topics

ニュース&トピックス

音楽学部

- 第36回卒業演奏会
- 大学院音楽研究科 第11回修了演奏会
- 音楽学部主催による第31回オペラ公演
- オーケストラワークショップ

音楽学部/人間発達学部

- 新入生合宿オリエンテーション!

人間発達学部

- 第3回 文化創造セミナー

美術学部/デザイン学部

- 第36回卒業制作展 / 記念講演会!
- 第13回大学院
美術研究科・デザイン研究科修了制作展
- 2009年度前期
交換留学生ウエルカムパーティー

デザイン学部

- デザイン学部レヴュー選抜展とその授賞式

大学/大学院

- 2009年度 名古屋芸術大学入学式
- 2009年度 新入生歓迎会
- 西キャンパス
デザイン学部1棟の増築工事が完成!

特集/クリエイ幼稚園

コラムNUA

美術は時代や文化を見る窓
美術学部教養部会 教授 橋本泰幸

Master Artist

マスターアーティスト

デザインの前にあるもの
デザイン学部講師 永井瀧登

Information

インフォメーション

- 2009年6月～12月までの
主な行事・イベントスケジュール
- 編集後記

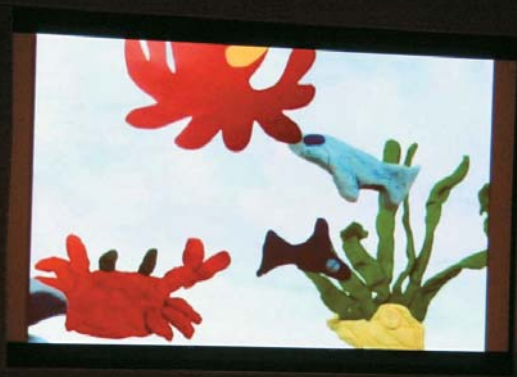
10
June
2009



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

- 名古屋芸術大学/大学院：
 - 音楽研究科
 - 美術研究科
 - デザイン研究科
- 学部：音楽学部
美術学部
デザイン学部
人間発達学部
- 名古屋保育・福祉専門学校/
保育科 介護福祉科
- 名古屋芸術大学附属クリエイ幼稚園
■ 滝子幼稚園



大学×企業×地域社会 産学官協同プロジェクト

一般的に、大学が社会から求められる事柄が増えてきているといわれています。大学の役割として、単に教育・研究機関としてだけでなく、産業界からは、研究・技術開発のための協力要請や次世代の価値観を先取りする学生の新鮮な発想が、また、地域社会からは、地域活性化のアイデアや協力、大学による地域への貢献など、従来にも増して、大きく幅広い役割が求められるようになってきています。本学でも、こういった要求に応えるべく、芸術文化交流室が窓口となり、産学官連携プロジェクトがさまざまな学部・コースで始まっています。産学官連携プロジェクトでは、大学から社会への貢献という面のほか、逆に、学生にも大きなメリットをもたらしています。企業との連携による実務の体験、地域社会事業への参画やサポートによる人々との交流などは、学内だけでは体験できない、非常に貴重な経験となっています。

特集では、これまで実施された産学官共同プロジェクトを通して、本学の社会貢献活動をご紹介します。





本学産学官協同プロジェクト製品
「T-3216
フィネストラ スタッキングチェア」
株式会社天童木工
¥39,900



備品購入が製品化へ発展

学内で使うため椅子を購入する予定が、学生自らでデザインするプロジェクトへ発展し、完成後、さらに天童木工が販売する商品として製品化と、予想以上に大きな進展となったのが、デザイン学部と天童木工によるキャンパスチェアデザインプロジェクト。

学生らは、まず学内をリサーチ、学生にアンケートして求められる機能を絞り、天童木工から支給された座面と背もたれが一体となったシェルをもとに、小さな紙製のモデルを制作してアイデアを出し合った。さらに、デザイン案を4モデルに絞り込み、1分の1モデルを工房で制作。それらを学内に展示、実際に学生たちが座ってみて評価をまとめ、1案に絞り込まれた。それをプロトタイプとして天童木工で製作され大学へ納品された。

しかし、当初予定の数を納品しただけでは、このプロジェクトは終わらなかった。天童木工の商品ラインアップに加えたいというお話をいただき、更なる量産化のために各部のブラッシュアップが行われた。カフェテリアや一般待合室など仕様用途を拡大するため座面の角度・高さの見直し、量産化へ向けての脚部・接合部分の見直しなど、半年以上の期間をかけて学生とともに検討しなおした。

新しい ステーショナリー、 家具の開発 2008



本学産学官協同プロジェクト製品
「book stand No. BS-001WN」
株式会社サイトーウッド
¥6,775



最終選考までのサバイバルレース

優れたデザインのインテリア用品を、成型合板を使って製造するサイトーウッドから、それまで同社の製品とは異なる新しい感覚を求められてスタートしたプロジェクト。優秀な作品は、製品として販売されることになる。デザインするものは自由だが、すでに同社で使っているシェルを利用するため、シェルから見立てして完成形を発想しなければならない。また、もともと同社のラインナップは非常にデザイン的に優れたものであるため、学生のデザインがそのレベルをクリアできるか、非常に難易度の高い課題となった。制作の過程では、試作、問題点の指摘と修正が繰り返され、学生にとっては、選考にどこまで残れるかといったサバイバルレースのような課題となった。この企画は非常勤講師荒木まさかず先生の授業の一環として行われたが、サイトーウッドの商品という性質上、完成品発想の面白さよりも製品化の現実性、コストなどが重視され、最終的にはスペースデザインコース4年生川合泰平君デザインの1点のみが製品化された。



「軽い感じで始まったんですが、学生たちも、荒木君にのせられて非常にいい体験になりましたね」

大学院デザイン研究科教授 平田 哲生

天童木工さんとは、天童さんに就職したうちのOBの田崎正憲君とデザイン学科非常勤講師の荒木まさかず君が同級生だったこともあり、彼ら二人が仕掛人なんです。もともとは、天童さんにあるシェルを少しだけ変える程度で、学生と一緒に実験でき面白いな、と軽い感じで始まったんです。ところが、学生側にいいメンバーが揃ったということもありますが、非常に熱心に取り組んでくれましたね。モデルなんかも200個以上作製してね、その根気といったら凄かったです。学生側としては、オリジナルデザインの趣旨を守りたいと、譲れない部分を守るのに一生懸命でした。これらの過程で、学生たちも山形県天童市の工場まで見学に行って、どうすればいいものができるか、工場の職人さん、デザイナーとも話をして、非常にいい経験ができたと思います。さまざまなこだわりがあるため、製品化のお話をいただいても長い時間かかりました。

サイトーウッドさんは、これまでと違う製品、若いセンス、感覚を取り入れたものを作りたいと考えられていたようで、プロジェクトが始まりました。シェルから何を考えるか考えなきゃいけない、自由度が狭くある意味高度な課題なんです。シェルを見て、そこにどうやって興味を持たせるか、そこからして難しかったです。作品では、僕が目から見て、「これはいいな」というのもいくつかあったんですが、サイトーウッドさんが選ばないんですね。製品化ということで、コスト面のことや、売れる、売れないという製品としてのことで判断されたことだと思うんですが、通常の授業とは違う面が重視される点は、学生にも興味深かったと思います。サイトーウッドさんのプロジェクトは、サバイバルレースのようになってきて、振り落とされていくわけですから、「負けるもんか」と言っているプライドの高い学生ほどよく頑張っていました。相当、鍛えられたと思いますよ。

飛騨・世界生活
文化センター



音楽学部



「飛騨・童話会議2009」オリジナルミュージカル
「眠りから覚めた眠りの森の美女」上演
2009



高山市民の芸術に対する造詣を深めるという目的で、「飛騨・世界生活文化センター」との協力で上演されたオリジナルミュージカル。制作、上演もすべて一般市民が参加できるミュージカルとしてプロジェクトはスタートした。205名の一般の参加者を、コーラス、ダンス、演奏、制作の4つのチームに分け、半年間のスケジュールで練習、準備が進められた。上演では1,200名以上の観客を集め大成功のうちに終演。参加者、観客からも好評をいただいた。終演後、名残惜しくいつまでもステージから離れない学生と参加者たちが見受けられるなど、心温まるものになった。

飛騨高山
ヴィルトゥオーゾ
オーケストラ



音楽学部



コンサート ライブレコーディング
2005～



本学OBの橋本浩規氏（NHK交響楽団トランペット奏者）をはじめとする飛騨にゆかりのある演奏家を中心になって活動する「飛騨高山ヴィルトゥオーゾオーケストラ」のコンサートを、音楽学部がライブレコーディング。



「参加した人の笑顔や、一生懸命取り組んでいる学生たちの表情を見ると、それまでの苦労など吹き飛びますね」。

芸術文化交流室長 金子 靖

産学官連携プロジェクトの窓口を勤める芸術文化交流室。各プロジェクトの段取りを支える、いわば裏方の仕事だ。

飛騨・世界生活
文化センター



音楽学部、美術学部



飛騨国際メルヘンアニメ映像祭「輪ニメーション」
2007～



「飛騨・世界生活文化センター」との協力で、第8回飛騨国際メルヘンアニメ映像祭で上映する「輪ニメーション」を制作。美術学部が中心となり、岐阜県内の3ヶ所でワークショップを開催してクレイ（粘土）アニメを作製して1本の映像にまとめ、映像に合わせて音楽学部で音楽を制作し、作品としてまとめ上げた。

北名古屋市



音楽学部



西春中学校 オペラ公演
2009



小牧市



美術学部



小牧市民ギャラリーオープン記念展
2008



2010年度入試日程

2009年度 オープンキャンパス

■ 音楽学部

6月20日(土) 10:00~
9月26日(土) 10:00~

■ 美術学部・デザイン学部

6月14日(日) 入門編 10:00~
7月19日(日) 20日(月) 体験編 10:00~
9月27日(日) 進学編 10:00~
2010年3月 スプリング編(開催予定)

■ 人間発達学部

7月25日(土) 10:00~
8月29日(土) 10:00~
9月27日(日) 10:00~



学部	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日	
■ 音楽	AO入試(A)(B)	9月18日~9月28日	10月4日	10月8日	
	推薦入試	10月16日~10月30日	11月7日	11月13日	
	A日程入試	1月4日~1月25日	2月5日・6日	2月10日	
	特待生入試	1月4日~1月25日	2月6日	2月10日	
	B日程入試	2月24日~3月19日	3月25日	3月26日	
	3年編入試(前期)	10月16日~10月30日	11月7日	11月13日	
	3年編入試(後期)	1月4日~1月25日	2月6日	2月10日	
	■ 大学院音楽 研究科	A日程入試	11月4日~11月20日	12月5日	12月10日
		B日程入試	2月24日~3月19日	3月25日	3月26日
	■ 研究生	研究生入試		2月15日	
■ 美術	AO入試	8月10日~8月25日	9月5日	9月8日	
	推薦入試	10月14日~10月29日	11月8日	11月13日	
	社会人入試	10月14日~10月29日	11月8日	11月13日	
	社会人シニア入試	10月14日~10月29日	11月8日	11月13日	
	3年編入試	10月22日~11月5日	11月15日	11月20日	
	地域入試(浜松)	11月19日~12月3日	12月12日	12月18日	
	A日程第一方式(セ、プラス)	1月7日~1月25日	2月5日	2月12日	
	A日程第二方式(一般)	1月7日~1月25日	2月5日	2月12日	
	センター利用入試(前期)	1月25日~2月8日	センター試験のみ	2月19日	
	B日程第一方式(セ、プラス)	2月25日~3月12日	3月19日	3月23日	
	B日程第二方式(一般)	2月25日~3月12日	3月19日	3月23日	
	センター利用入試(後期)	2月25日~3月12日	センター試験のみ	3月23日	
	■ 大学院美術 研究科	I期入試	10月22日~11月5日	11月15日	11月20日
		II期入試	1月27日~2月10日	2月20日	2月26日
	■ 研修生	研修生入試	1月27日~2月10日	2月20日	2月26日
■ 研究生	研究生入試	2月25日~3月12日	3月19日	3月23日	
■ デザイン	AO入試	8月10日~8月25日	9月5日	9月8日	
	AO 3年編入試	8月10日~8月25日	9月5日	9月8日	
	推薦入試	10月14日~10月29日	11月8日	11月13日	
	社会人入試	10月14日~10月29日	11月8日	11月13日	
	3年編入試	10月22日~11月5日	11月15日	11月20日	
	地域入試(浜松)	11月19日~12月3日	12月12日	12月18日	
	A日程入試	1月7日~1月25日	2月4日・5日	2月12日	
	B日程入試	2月25日~3月12日	3月19日	3月23日	
	■ 大学院デザイン 研究科	I期入試	10月22日~11月5日	11月15日	11月20日
		II期入試	1月27日~2月10日	2月20日	2月26日
	■ 研修生	研修生入試	1月27日~2月10日	2月20日	2月26日
	■ 研究生	研究生入試	2月25日~3月12日	3月19日	3月23日
	■ 人間発達学部	AO入試	9月7日~9月25日	10月4日	10月9日
		3年編入A日程入試	10月7日~10月30日	11月7日	11月13日
		推薦A入試	10月7日~10月30日	11月8日	11月13日
推薦B入試		11月10日~11月30日	12月6日	12月11日	
社会人入試		11月10日~11月30日	12月6日	12月11日	
大学入学資格審査入試		11月24日~12月4日	1月31日	2月8日	
一般A日程入試		1月6日~1月22日	1月30日・31日	2月8日	
センター前期入試		1月6日~2月2日	センター試験のみ	2月15日	
センター後期入試		2月19日~3月8日	センター試験のみ	3月17日	
一般B日程入試		2月19日~3月8日	3月13日	3月17日	
3年編入B日程入試		2月19日~3月8日	3月13日	3月17日	

※実施する学科(専攻コース)の詳細及びその他の入試については、2010学生募集要項を参照してください。

アート&デザインセンター 2009/2010 展覧会スケジュール



Open / 12:00~18:00 (最終日は17:00まで)
日曜・祝祭日休館
[入場無料] どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先 / (0568) 24-0325 (代)

会期

6月5日(金)→6月10日(水)
6月12日(金)→6月17日(水)
6月19日(金)→6月24日(水)
6月19日(金)→6月24日(水)
6月19日(金)→6月24日(水)
6月26日(金)→7月1日(水)
7月3日(金)→7月8日(水)
7月3日(金)→7月8日(水)
7月10日(金)→7月29日(水)

7月31日(金)→8月5日(水)
8月6日(木)→9月14日(月)
9月15日(火)→9月19日(土)
9月24日(木)→9月30日(水)
10月2日(金)→10月7日(水)
10月9日(金)→10月14日(水)
10月16日(金)→10月21日(水)
10月23日(金)→10月28日(水)
10月30日(金)→11月4日(水)
11月6日(金)→11月11日(水)
11月13日(金)→11月18日(水)
11月20日(金)→11月25日(水)
11月27日(金)→12月2日(水)
12月4日(金)→12月9日(水)
12月4日(金)→12月9日(水)
12月11日(金)→12月16日(水)

12月26日(土)→1月7日(木)
1月8日(金)→1月13日(水)
1月15日(金)→1月20日(水)
1月26日(火)→2月2日(火)

展覧会名

FROM REMISE#11
名古屋芸術大学教員展
インプロヴィゼーション
reconstruction
Coming-out1
洋画2コース選抜展
名古屋芸術大学前期交換留学生作品展
マツト・ソズ個展
2009年度企画展
模型で見るミュージックシーン
素材展
夏期休館
一人称展
To soft sculpture
フィリップ・ブース2002-2009, A JAPANESE RETROSPECTIVE
JAGDA新人賞受賞作家作品展2009
境界から見えるモノ
大学院洋画制作展
美術学部コース展(仮称)
新世代ガラス展/G.E.N
彫刻AB展
遭遇するドローイング'09展 Erwin Regl,伴野祥久,栗木義夫,長谷川直美
MCD&a デザイン学部メディアコミュニケーション デザイン&アート展
名古屋芸術大学後期交換留学生作品展
幼稚園児たちのゲイジツ展
工芸選択コース作品展
冬季休館
日本画3年作品展
洋画3年油画展
AFTER REMISE#11 柴田麻衣+平田あすか

※会期・内容は変更になる場合がありますので、ご確認ください。

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



2007年、卒業演奏会にて「シマノフスキ作曲、主題と変奏曲 作品3」を演奏。



ファルヴァイ・シャンドール先生（元ハンガリー国立リスト音楽院長・名古屋芸術大学大学院音楽研究科教授）と。



本学の姉妹校であるハンガリー国立リスト音楽院での研修セミナーにて。

後悔しないように、精一杯に

大学4年間、特待生として学費免除となった才媛。思わず「優秀なんですねえ」と言葉を漏らすと、「そんなことないです」とにこやかに首を振る。楚々とした物腰の方が印象的。よき家庭で生まれ、努力家に成長したことを偲ばせる。先般行われた、日演連推薦新人演奏会、名フィルとの協演の写真を手し、そのときのことを語り始めた。「プレッシャーでした」。

演奏したのは、ベートーヴェン、ピアノ協奏曲第4番長調作品58。革新的な手法が盛り込まれた曲で、ピアノソロと伴奏のオーケストラが入り組み、合わせるのが難しい曲である。この楽曲との係わりは、演奏会の前年、5月まで遡る。姉妹校のハンガリー、リスト音楽院でも演奏し、同じ曲で、新人演奏会のオーディションへもチャレンジしたいと考えていた。ところが、本学へ入学する以前から師事する恩師、河原元世氏にもらった言葉は、「このままじゃなくて、もう一段階、上のレベルの演奏をしなければだめよ」と厳しいものだった。オーディションへ向けて、練習が始まった。ホール借りての練習、場所を変えてみたり、楽器を変えてみたりと、自分なりの工夫も凝らした。「運が良かったこともあると思いますが、受かって嬉しかったです」努力家の姿が垣間見える。先生の言葉に、自分

の努力に、恥じることのない演奏をしたいという、プレッシャーも大きかったのだろう。

プレッシャーの克服が、目下のところの大きな課題という。適度に緊張感を保ち集中力を途切れさせないようにコントロールする。中学になったころ、緊張のあまりか、演奏途中で舞台上で指が止まってしまった経験がある。その恐怖に打ち勝つために練習、そして、緊張のコントロールに取り組んだ。「緊張しすぎても、リラックスしすぎても駄目なんです。上手くバランスできたときが、上手く演奏できるときなんです」。純粋にきれいな音に憧れると、好きなピアニストにクリスティアン・ツィーマンを挙げてくれたが、細心のコントロー

ルは、その音への思いもあるのだろう。

「河原先生がおっしゃった言葉が強く印象に残っています」、日く「進路など、二つの岐路で迷ったとき、どちらを選んでももう片方へは戻れない。それなら進んだ道で後悔しないようにすればいい」柔らかな話し方と物腰の向こうに、竹のようなしなやかな強さをうかがわせた。

「他の大学にくらべて、コンチェルトをやらせてもらえる機会が多くて、恵まれていて、すごくいいことだと思います。今、私は伴奏やアンサンブルの勉強もとてもしたいと思っていますので、今後、お話をいただければ嬉しいです」穏やかに、しかし、精一杯に、道を進んでいる。



2009年、第147回日演連推薦新人演奏会にて名フィルと「ベートーヴェン、ピアノ協奏曲第4番長調作品58」を協演。



Vol.14
NUA-OG
宮本未央

- 1982年（昭和57年）、愛知県生まれ。
- 2007年 音楽学部器楽科ピアノコース卒業。
- 2009年 大学院音楽研究科修了。学部を1年終えた後、カナダ・バンクーバー音楽院にて、サイダ・マチュコフ氏の下で研鑽。
- 2005、06、07年 教育連盟ピアノオーディション奨励賞、全国本選出場
- 2005年 第7回日本演奏家コンクール入選
- 2007年 第29回読売中部新人演奏会出場
- 2008年 第9回大阪国際音楽コンクールコチェルト部門アブニール賞受賞
- 2009年 第11回万里の長城杯音楽コンクール第4位
第147回日演連推薦新人演奏会オーディションに合格、名フィルと協演
現在、本学音楽学部演奏学科契約助手を務める。



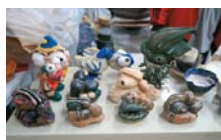
「まだまだ隙がありすぎて満足はしてないですよ」



Vol.15
NUA-STUDENT

小澤直樹

美術学部
工芸(陶)選択コース 4年



顔、顔、顔！ アトリエの一角、デフォルメされたさまざまな顔のデッサンが所狭しと押し寄せてくる。そして、それらをもとに制作されたオブジェが、確かな存在感を放つ。モチーフは常に変わらない。顔である。「今のところ、顔なんですけど、神とかかマスクとか、神様をかたどったのが始まりだと知って」。強調されるのは目、鼻、あるいは顎。どの作品も、漲るような生命力を感じさせる。キュビズムの端緒となったアフリカの彫刻、ポリネシアのTiki、獅子頭、鬼瓦…、どの作品からも、これらに含まれているものと同じものが伝わってくる。人間の非常に根源的な部分を揺さぶる力強さ。シンプルであり、楽しい。

「口下手なんで…」照れるように、きれいに丸めた頭を掻きながら、とつとつと話す。「アフリカのお面とか見ていると、わけがわからないけど面白くて大好きで、

それに負けじと作ってます」。もともとは絵を描くことが好きだったが、自分で思ったもの、心に浮かんだものを作ることに魅せられた。「粘土を扱うようになって、窯で焼いてみて、面白くて、それで陶芸かなって。でも、最近でもよくわかんなんですよ(笑)」。大学に入ってから、さまざまな素材も試すことができ、石、ガラスにもチャレンジしてみた。それぞれに、面白い点と発見があったという。「作品でも、いろいろと試してるんですけど、作ってる途中で隙がありすぎて、まだまだこれっていうものは出来てないですね」。

「研究生になって学校に残ろうか、どうしようか…」 作品を作り続けられるよう、将来を思案中とのことだが、楽天家に見える風貌からか、友人には相手にされないとい苦笑する。人懐こい笑顔に、どんな困難にも打ち勝てそうな、作品同様の生命感がきらめいた。

【先生からのひとこと】 2年生後期より小澤君とは顔を会わせる事と成った。その折より彼のテーマは、技楽面を彷彿とさせる面相、面構えを黙々と追う自己の内側にあって、寡黙で目立たない性格ではあるが、なかなかの好漢だ。石を彫ったり、ガラスに手を延ばしたり、時折私を楽しませてくれる。是非、今年の飛躍を期待したい。(陶芸コース教授 吉川正道)

同居する二面性の魅力

「受験するときからガラスがやりたくて。2つの作品を推してくれた。「細胞」と名づけられた作品は、ガラスに閉じ込められた気泡を細胞の一つ一つに見立てたもの。「窯にガラスを投入して溶かして、それをブローするんですけど、泡が抜けきらないでいっぱい入った状態のときがあるんですよ。それがすごく綺麗で、それを見せたいなと思って」 対照的なのは、ガラス管を接合した、自分の背丈よりも高いところの音を聞くためのツール。「これを作った時期は、私自身が癒しを求めている、木々の音に癒されたい、そういう時間をやりたくて考えました」 どちらにも、ほかならぬ彼女自身が投影されている。

「この学校は、かなり自由にやらせてくれるところがいいと思います。他の学校の人と話したときに、如何に自分がやりやすい環境にいるかがわかりました」 今後は、大学院に進み、もっと作品作りを続けたいと語ってくれた。



Vol.16
NUA-STUDENT

前田真喜子

美術学部
工芸(ガラス)選択コース 4年



【先生からのひとこと】 学生時代は、好奇心と想像力を生かし、色々なことにチャレンジして、できるだけ多く自分にとっておもしろいことを発見する時期だと考えます。更に、前田さんのように、その時々感じたことや興味を持ったことを、精力的に作品制作へ発展させていけるエネルギーが求められます。そして、アイデアを形にする時、ガラスという素材は光や色によってその印象を千差万別に変化させ、幅広い表現力を与えてくれるのです。(ガラスコース教授 マイケル・シャイナー)

音楽学部

第36回卒業演奏会

2009年2月25日(水)・26日(木)の両日にわたり、名古屋市中区のしらかわホールにおいて、名古屋芸術大学音楽学部の第36回卒業演奏会が行われました。卒業演奏会は、出演者にとっては大学卒業までの4年間の学業の成果を示す最後の発表の場です。本年度は、この春の卒業試験で優秀な成績を取めた学生が、初日の25日に12名、二日目の26日に14名、合計26名出演し、独奏や独唱のかたちで晴れの舞台

に臨みました。家族や友人の見守る中、緊張しながらも日ごろの練習の成果を存分に発揮していました。

また、優秀卒業論文の発表も同時に行われ、演奏学科弦管打・バンドディレクター選択コースで1名、音楽文化創造学科音楽教育選択コースで2名、同学科音楽療法選択コースで5名が、さらに、優秀作品の発表では音楽文化創造学科サウンド・メディア選択コースの3名が選ばれました。



音楽学部

大学院音楽研究科 第11回修了演奏会

2009年3月3日(火)～5日(木)まで3日間にわたって、本学大学院音楽研究科の第11回修了演奏会が名古屋市中区のしらかわホールで行われました。

この演奏会は、今春大学院音楽研究科を修了する院生全員が、オーケストラ/コレギウム・アカデミカ(大学院の演奏研究グループで、教員・卒業生などを中心に組織されたオーケストラ)と共演する構成で、独奏・独唱とオーケストラが

織りなす色彩豊かな演奏が特色となっています。

本学客員教授のヤン・ヴァン・デルロースト氏がオーケストラの指揮を執り、作品発表をはじめ、ソプラノ独唱、ピアノ・トランペット・パーカッション独奏など各研究領域での熱演が観られました。客席を埋めた聴衆からは惜しみない拍手が贈られていました。



音楽学部

音楽学部主催による 第31回オペラ公演

2009年3月18日(水)中京大学文化市民会館ブルニエホールにおいて、名古屋芸術大学音楽学部主催による第31回目のオペラ公演、I部「パリアッチ」、II部「カヴァレリア・ルスティカーナ」が開催されました。このたびの公演は、国際交流の一環として、キャストに学術交流姉妹提携校である慶南大学の卒業生をお迎えした共同公演となりました。

17世紀初頭にイタリアで生まれたオペラは、演劇と音楽によって構成される総合舞台芸術です。今回のオペラ「パリアッチョ(道化師)」と「カヴァレリア・ルスティカーナ」はヴェリズモ・オペラの代表作で、人々の日常生活における愛憎や暴力な

どの描写が多用されているのが特徴で、上演時間が短いことや場面展開が必要ないことから、一晩で上演されることが多く見られます。

物語は、旅芸人の一団の座長(カニオ)が女優である妻(ネッダ)と演じる芝居(アリパッチョ)が妻コンピーナの浮気を見抜けず笑いものになる)と現実の境目が分からなくなって、妻と浮気相手の男(シルヴィオ)を刺し殺してしまうというものです。

II部の「カヴァレリア・ルスティカーナ」は、イタリアの小説家ジョヴァンニ・ヴェルガによる小説と戯曲に基づくもので、題名は「田舎の騎士道」といった意味です。物語は、



ヴェルガの出身地シチリアの山間部を舞台として、兵役帰りの若く貧しい男トゥリッドゥと、彼の元婚約者であった人妻ローラとの男女関係のもつれ、そしてトゥリッドゥがローラの亭主アルフィオに決闘で殺されるまでを描いたものです。

I部(カニオ)、II部(トゥリッドゥ)とともに主役を演じたのは、本学卒業生の笛田博昭氏で、平成20年度愛知県芸術選奨文化新人賞を受賞された新鋭のテノール歌手です。また、II部でアルフィオを演じたのが慶南大学卒業生の朴 泰勳氏でした。

本学のオペラ研究室では、総監督澤脇達晴教授の指導の下、2004年以来イタリアからダリオ・ポニッスイ氏を演出に迎え、原語によるオペラ公演に取り組んできました。今回もI部・II部ともに原語上演(字幕付き)で行われました。ちなみに、ダリオ・ポニッスイ氏は司祭の役

でII部に出演されました。演奏学科教授古谷誠一の指揮する名古屋芸術大学オーケストラの重厚な演奏と、出演したソリストの感情表現のある歌声に、会場は熱気に包まれ、時間の立つのも忘れられる見ごたえのあるすばらしい公演となりました。

音楽学部

オーケストラワークショップ

2009年3月26日・27日の2日間、名古屋芸術大学オーケストラワークショップが行われました。中学生から一般の人を対象にオーケストラの楽しみを知ってもらおうと4年前から始まったこのワークショップは、回を重ねるごとに参加人数が増えて、今年は140人を越える応募があり、注目の高さが伺えました。

今年の初発表会の曲は、ドヴォルザークの交響曲第8番、ラロのス

ペイン交響曲、シベリウスのフィンランディアの3曲で、オーディションで選ばれた3人のソリストと共に講習生が熱演していたのが印象的でした。また、発表会後に今回の講師陣による弦楽四重奏の演奏が行われ、2日間のオーケストラワークショップは閉幕しました。



音楽学部

人間発達学部

新入生合宿オリエンテーション！

2009年度の前期オリエンテーションは、東キャンパスが4月1日から8日まで、西キャンパスは3月31日から4月8日まで実施されました。この間、4月4日には全学の入学式が行われ、4月9日からは前期の授業が一斉に開始されました。

東キャンパスの音楽学部では、オリエンテーションのトップを切って4月1日・2日、1泊2日の日程で音楽総合コースの新入生合宿が行われました。また、人間発達学部でも4月6日・7日の日程で新入生合宿が実施されました。ここでは、これらの合宿の目的や内容・成果について、参加引率した教員から簡潔に報告していただきました。

生相互のつながりが希薄になりがちで、それが学生生活を開始するときに孤独感を感じるなどの問題を引き起こす可能性があります。合宿ではコースのほぼ全員の学生が共通の時間を過ごし、さらに交流の時間があり、人間関係の面から学生生活の開始が容易となります。今回の合宿でもこの点は効果があったと思われます。

合宿地の八ヶ岳清里高原は4月でも雪が残っており、到着した夜にも雪が降りました。名古屋とは全く異なる環境での合宿が学生生活の出発点となったことは、参加した新入生にとっては印象的であったと思われます。

音楽総合コース長 中河 豊



音楽学部

音楽総合コース新入生合宿

音楽総合コースの合宿は科目履修指導が基本です。このコースは既成のカリキュラムが無く、学生がその問題関心に基づいて独自のカリキュラムを設計します。そのためには、卒業に至るまでの単位

修得について正確な知識が必要です。合宿では教務課とコース担当教員が全体的説明から個別指導までを行い、新入生が科目登録できるようにしました。また上級生も新入生へアドバイスを与えるために参加しました。

音楽総合コースではカリキュラムが個人的に相違するために、学

人間発達学部

新入生合宿オリエンテーション

生き様から学ぶ

人間発達学部子ども学科では、

三重県志摩の「合歓の郷」で新入生と学部教員で合宿オリエンテーションを開催しました。

I部では、「学びと出会い」「私のあゆんだ大学4年間」「大学の活性

化(自治)と学生の役割」と題して教員から報告を受け、質疑応答も行いました。人生と学びの先達である教員から山坂ある人生をそれぞれが歩み続け、友達も見だし、

冒険をし、人の優しさと触れ合いを知って今があること、学生は自らの学びには責任をもって自分から取り組むべきこと、自由には自ずと常識的なところで制限がある

こと等を学びました。

2部では、「自然やスポーツに親しむ」ことでクラス作りのきっかけになるようにとの狙いもあって、広大な自然の中を散策したり、釣りをしたりとまったく知らない者同士が親しくなる場が持たれました。

3部では、ゼミ(総合演習)単位で、さらにクラス作りと意見を述べ、協働していく体験をして、さらに「仲間作り」ができるようにと工夫された「演劇」の発表をめざしたシナ

リオ作りや小道具の作成等の時間を持ちました。発表された演劇、寸劇等は、いじめ、家族、創作童話等と各ゼミで豊かな内容をもってしました。

一年いや4年間の大学で、「学び」を中心とした「仲間」としての生活の第一歩となりました。

人間発達学部講師 加藤 暢夫



人間発達学部

第3回 文化創造セミナー

2009年5月9日(土)、文化創造セミナーが東キャンパス音楽講堂で開催されました。今回は、講師に宮本延春さんを迎え「君の夢はなんですか?」と題した講演をしていただきました。

著書「オール1の落ちこぼれ、教師になる」で知られるように、小学校、中学校で落ちこぼれを経験されています。しかし、社会に出てから物理学と出会い、最終的には名古屋大学で大学院まで9年間研究に没頭し、現在は母校である豊川高校で数学の教諭をされています。そ

の立場から、何が人生を変えたのか、落ちこぼれた子どもの心理、そして勉強にどんな思いで打ち込んでいたのかを話されました。

自分の体験をもとに語られる、いじめられる子どもの心理、いじめから勉強不振や学校嫌いが生まれる様子、どうやって勉強するのかかわからないまま強制されることの苦痛や戸惑いなどのエピソードは、教育者・保育者を目指す学生達の心に深く届く話でした。できなかったことを叱るばかりでなく、まずできたことをきちんと認め、そ

して、子どもの気持ちに寄り添ってあげられる先生になってほしいという言葉に深く感銘を受けました。そして、努力は裏切らない、やればできる!という、自信、自己肯定感をつかむことの大切さを話されました。どんな困難があっても、学びたいという情熱があれば道は開けるという話は学生にとって大きな励ましとなるとともに、自分の夢、

学ぶ目標を改めて考えさせる機会となったことと思います。

質疑応答の際、学生の質問に答え出た「なやみや苦しみがないと人間は成長しない。なやみや苦しみがあがることはすばらしいこと。なやみを乗り越えた先を考えて、乗り越える勇気にしてほしい。」という宮本先生の言葉は、会場のみんなへのエールとなりました。



美術学部

デザイン学部

第36回卒業制作展 / 記念講演会!

第36回目となる名古屋芸術大学の卒業制作展が2009年2月24日(火)~3月1日(日)まで、愛知県美術館ギャラリー・名古屋市民ギャラリー矢田・本学西キャンパスの3会場で行われました。

期間中は、卒業生の集大成とし

ての作品を一目見ようと、学生達の父母をはじめ大勢の関係者が訪れていました。また、作品の講評会や優秀論文の発表会、さらに、姉妹提携校である英国のブライトン大学の教授による記念講演会なども行われ盛況な展示会となりました。



美術学部

デザイン学部

第13回大学院 美術研究科・デザイン研究科修了制作展

第13回の名古屋芸術大学大学院美術研究科及びデザイン研究科の修了制作展が、3月3日(火)~8日(日)まで、名古屋市民ギャラリー矢田で行われました。

この春、大学院を修了する学生たちの専門的研究と研鑽を重ねて

制作された作品が一堂に展示され、最終日の8日には、大勢の関係者が訪れて熱心に鑑賞していました。



美術学部

デザイン学部

2009年度前期
交換留学生ウエルカムパーティー

本年度前期に来学した交換留学生を招待して、本学西キャンパスの学生カフェテリアで、4月27日(月)、「留学生のウエルカムパーティー」が開催されました。

前期の留学生は、英国のブライトン大学から4名、ファルマス大学から1名。タイのスリナカリンウィロット大学から5名。韓国の龍仁大学から2名、慶南大学から2名の合

計14名で、全員が参加して行われました。

開会に先立ち、榑 達雄学長から歓迎のスピーチが行われました。その後、留学生一人ひとりが挨拶に立ち、覚えての日本語で、自己紹介とこれからの抱負などについて語ってくれました。ブライントン大学からの留学生を含めてほぼ全員が日本語で挨拶をするのは恒例

のことで、国際教育センターの担当者も、彼らの日本語を学ぼうとする積極的な姿勢に感心していました。

その後、懇親会に移り、留学生たちは日本人学生や指導教員たちと

語り合いながら、和やかな雰囲気の中で、しばし歓談していました。

このような留学生との交流により、現在募集中の本年度本学からの海外派遣留学生の応募が増えることが期待されます。



デザイン学部

デザイン学部レビュー選抜展と
その授賞式

4月3日(金)から15日(水)まで、西キャンパスのアート&デザインセンターおよびX棟1Fギャラリーで、「デザイン学部レビュー選抜展」が行われました。

この展覧会は、本年1月に行われたデザイン学部恒例のレビュー展の作品群から、特にすぐれた作品を選抜して公開展示されたものです。優秀作品は、1年生は各クラスから2名、2・3年生はそれぞれの専攻コースから原則各1名が選抜されま

した。さらに、教養賞として各学年1名が選ばれ、延べ47名の作品が展示されて行われました。

そして、優秀者への表彰式が4月9日(金)、授業終了後に同センター内で行われました。駒井貞治講師の司会のもと、最初に挨拶に立った溝口学部長は、表彰された学生たちを称え、激励の言葉を送ると共に、このような優秀な作品にふれることは教員にとっても大変嬉しいことであると述べられました。

挨拶の後、フィリップ・ブース教授から受賞者一人ひとりに表彰状が手渡され、また、各コースの指導教員からは、学生たちのために工夫を凝らした記念品が贈られました。受賞者達は、はにかみながらも嬉しそうに受け取っていました。

デザイン学部各専攻コースの教

員と学生が一堂に会し、直接ふれあい会話する意義深い授賞式となりました。その後、懇親パーティーに移り、和気あいあいとしたごやかな雰囲気の中で予定通り終了しました。

大学
大学院2009年度
名古屋芸術大学入学式

2009年度名古屋芸術大学入学式が4月4日(土)、本学西キャンパス体育館で行われました。午前10時の開式1時間ぐら前から、キャンパス正門入り口には、自治会学生達の人垣によるトンネルができ、正門をくぐる新入生や父母たちにパンフやチラシを手渡し、熱烈に歓迎していました。

「開式のこぼ」で始まった式典では、まず、榑 達雄学長より、本年度の大学院入学生(音楽・美術・デザイン研究科生)及び学部入学生(音楽・美術・デザイン・人間発達学部生)全員の入学が許可されました。続いて、式辞で榑学長は、「大学における勉学は、受身の姿勢ではなく、問題意識を持ち、自主的・積極的に学習することが不可欠です。そし

て自分の専門能力の修得と同時に、他の専門分野や文化などを理解できる「教養」を身に付けることが求められます。皆さんは学生であると同時に社会人です。日本の社会で起きていること、世界で起きていることに目を向けるようにしてください。日本の社会では、政治の混迷、経済不況、後期高齢者医療制度などが、世界的には、金融・経済危機のほか、局地的な戦争、環境、エネルギー、食料、人口、医療などの問題に直面しています。将来、希望を持てる社会にできるかどうかは、皆さんの双肩にかかっています。」と激励されました。

また、「異文化を学ぶ良い機会として、本学に在籍する留学生達との交流や、真の友人を作るなど、人

間形成において重要な役割を果たす積極的な自治活動、クラブ活動などを奨励されました。

続いて、入学生代表による宣誓が行われました。大学院の総代としてデザイン研究科デザイン専攻の桑山明美さんが、学部の総代として音楽学部音楽文化創造学科の平本美生子さんが力強い声で宣誓を行いました。

この後、本学の設置法人である学校法人名古屋自由学院を代表して、川村科子理事長の挨拶が行われ、また、来賓を代表して北名古屋市長から祝辞をいただきました。

最後に、出席された来賓と教員役職者の紹介が行われ、「閉式のこぼ」で式典は終了しました。

式典終了後は、電子オルガンと打楽器アンサンブルによる新入生「歓迎演奏」が行われました。曲目は、E.Elger(エルガー)作曲の「威風堂々」で、演奏者は、電子オルガンが演奏学科の鷹野雅史准教授、打楽器は、本学卒業生と在籍生6名でした。

大学生活の第一歩を祝福する式典にふさわしいメロディーが会場一杯に響き渡り、感激と感動の中での入学式となりました。



大学 大学院

2009年度 新入生歓迎会

4月11日(土)、自治会主催による新入生のための歓迎会が東西両

キャンパスで行われました。お昼前から始まった歓迎会では、昨年

秋の芸大祭で人気を集めた模擬店が出店したり、お決まりのサークル紹介イベントを中心に、バンド演奏、クイズやビンゴ大会など、在学生による工夫を凝らした企画が

盛り沢山でした。新入生も在学生も一緒になって楽しんだひと時となりました。クイズで豪華商品？をゲットした新入生の笑顔が輝いていました。

東キャンパス



和太鼓部(サークル紹介)



ミュージカルコース



JAMPA SWING ORCHESTRA(サークル)



偉大なドラムの丹羽先生(手前右)



模擬店



新入生たち



クイズで特別賞をゲットした学生たち

西キャンパス



オープニングのーコマ



「ワニワニバックン」ゲームをしている新入生



「ラブ企画」新入生同士の恋人づくり



「商品争奪」ゲームに登場した「クジマン」



「部活紹介」ダンス部



「箱の中身はなんじゃらな」ゲーム



怪魚「ムチムチバキュームチン」の登場

大学 大学院

西キャンパス デザイン学部U棟の増築工事が完成!

西キャンパスで、昨年11月より施行していましたデザイン学部U棟の増築工事が3月31日に完成しました。

昨年4月、デザイン学部には2つの新しいコース(メディアコミュニケーションデザイン選択コース、

セラミックデザイン選択コース)が設置され、実習室が不足したため、それを補うために行われたものです。既存施設を効率的に拡充し学生に供することを目的に、実習室は、U棟南側に増築されました。

これにより、1・2階に広い実習室

のスペースを確保することができ、同一コースを選択した2年生から4年生が同じ実習室で演習が可能と

なり、教育効果の上がる環境が整いました。



Column NUA No.7

美術は時代や文化を見る窓

美術学部教養部会 教授 橋本泰幸

美術教育は造形世界やそこにある造形意識を共有するための教育といえます。共有することによって美術は理解され、その美術を生み出した時代や文化を知ることが出来ます。

たとえば「濃淡」について考えてみましょう。濃淡というと水墨画にあるような「ぼかし」、つまり墨の「濃い」「薄い」を連想するでしょうね。しかし、これを色彩の「強

「弱」までを含んだ美の特質の一つとしてとらえ、この観点から日本の伝統美術の優秀性を指摘した人がいます。アーネスト・フェノロサです。彼は明治の始め東京大学で哲学や経済学を教える「お雇い外国人」として来日しました。しかし一般には伝統美術興隆への貢献で知られています。彼は日本の伝統美術を高く賞賛し、そこにある「濃淡」の美が、ギリシャ美術に源

を持つ美の一つであることを指摘します。それは光による明暗の美ではなく、画家の創造による「濃」と「淡」の統一的な調和による美を意味しており、ルネサンス以降の西洋美術において、立体感表現の主要な技法となっていました。

フェノロサによって「濃淡」の美を知ったアーサー・ウエスリー・ダウは、これを原理とする美術教育によって、多くの画家や美術教師を育てました。ジョージ・オキーフもその一人です。さらに、「濃淡」をすべてのデザインの基礎にすると共に、これを古代中国の「陰陽論」と結びつけ、

視覚世界の事象のみならず、時間や感覚、思考まで、言うならば、人が生きるうえで関わるすべての事柄に関与するものとして考える運動も誕生しました。ここに見るフェノロサからダウを経て今日に至る「濃淡」の理解は、日本美術理解の変遷といえ、同時に日本文化を見る窓になっていったと言えるのではないのでしょうか。

学制にはじまる明治の図画教育は、透視図法と明暗法により西洋美術世界を理解し、西洋文化を我がものにしようとなりました。ここでは西洋画法は、近代化のための知識・技術として捉えられていました。

特集 クリエ幼稚園

名古屋芸術大学付属クリエ幼稚園は、芸術大学の附属という強みを活かし、年間を通じて大学と連携した様々な活動を行い、幼稚園児たちに本物の芸術に触れる機会を提供しています。

一般に、幼児期における芸術との触れ合いは情操教育の観点からも大変重要であることが知られており、この点においてクリエ幼稚園は他園をリードしていると云えるでしょう。

今回は「幼児と芸術」という視点で、クリエ幼稚園の大学と連携した活動の一部を紹介します。

4月 入園式

名古屋芸術大学音楽学部の卒業生の方々（ヴァイオリン教室講師3名とピアノ伴奏者の方）により、入園式中にヴァイオリン演奏をします。

演奏曲は『ちゅうりつぷ』『さんぽ』などです。



美術学部 ワークショップ
漉いた紙とスタンドグラスの展示

園児たちにとっては、クリエ幼稚園に入園し初めて生の演奏に触れる機会となります。

6月 親子で吹奏楽を
楽しもう

大学の演奏学科の先生に依頼し、音楽講堂で親子で演奏を聴きます。



美術学部 ワークショップ
先生の補助を受けながらリトグラフを印刷

親子一緒に演奏を聴くことができるのも附属ならではのこと。また、聴くだけではなく、各自で手作り楽器を準備し、演奏に合わせて楽器を鳴らしながら演奏に参加します。

9月 美術学部
ワークショップ

年長児が、大学の西キャンパスに出向き、エッチング、リトグラフ、紙漉き、モビールのワークショップを4日間体験します。大学の機材を使わせていただき、作品の制作をします。12月に大学で行われる展覧会『幼稚園児のゲイジツ展』で、作品が展示されます。

また、年中児親子も美術学部へ出向き、野外でフロッタージュをしたものを使って「ありがとうのカードづくり」を行います。それらも、展覧会での展示作品となります。

美術の専門の先生と学生さんと

の交流も図っています。

11月 親子で楽しもう
秋のおんがくかい

音楽学部の音楽文化創造学科の先生に依頼し、専門の方の歌や演奏を、音楽講堂で親子で聴かせていただきます。

3月 卒園式

名古屋芸術大学音楽学部の卒業生の方々（ヴァイオリン・ピアノ・チェロの3名）により、卒園式開始前、修了証書授与の時、退場時に生演奏をさせていただきます。

クリエ幼稚園児の最後に生演奏に触れる機会となります。



美術学部 ワークショップ
紙漉きの説明を受ける園児たち



美術学部 ワークショップ
ギャラリーのサインをフロッタージュ



入園式



親子で吹奏楽を楽しもう



親子で楽しもう 秋のおんがくかい



卒園式

一方、フェノロサやダウによってアメリカに紹介された「濃淡」は、美術教育のジャポニスムとして彼の地で大きな花を咲かせます。時を経て、明治の末、「濃淡」は、日本の図画教育の世界に「里帰り」しましたが、そこでは西洋が認めた「濃淡」の価値については注目されませんでした。たぶん開明主義のもと西洋文化の摂取が、最も重要な課題とされた当時の日本にとっては、日本的視覚が持つ価値は、教育にとってそれほど必要とされなかったのでしょうか。

ここでは「濃淡」をとりあげ、時代や文

化によって人が創造する美術様式の違いを述べてみました。美術様式の違いは時代や文化の異なりを、視覚様式の差を示していることがお分かりになったことでしょうか。ですから美術教育で学ぶべきは、ただ作品にある造形の巧みさを知るのではなく、作者固有の造形様式と、それを創りあげた造形意識を知るとともに、その背景にある時代や文化の理解にあると言えるのです。そこにこそ本来の美術理解が生まれるのではないのでしょうか。



アーサー・ダウ、五月雨、1908



ジョージア・オキーフ、宵の明星 II、1917

マスター ↑↓to アーティスト



【第7回】

< デザインの
前にあるもの >

永井瀧登 デザイン学部講師

1969年 長野県生まれ
名古屋芸術大学美術学部デザイン科卒

映像制作会社、広告制作会社、広告代理店を経て独立。数多くの企業の広告、SP、マルチメディア、Web、映像、サウンドのプランニング、ディレクション、制作を行うと共に専門学校、大学、デザイン協会にてヴィジュアルデザイン及び、メディアデザイン、サウンドデザインなど広範な分野で後進の指導を行う。国内外で多数の作品を出版、掲載する。



挨拶を交わすとすぐに、「これを見ていただいたほうが…」といいながら、でんつと差し出された3つの大きなファイル。それぞれがポートフォリオとなっていて、エキシビション（展覧会）、デジタルメディア、ペーパーメディアと説明する。「広告、セールスプロモーション、マルチメディア、Web、映像、サウンドのプランニング、ディレクション、制作…」時代の最先端を縦横無尽に、ジャンルを問わず行き来し、制作だけに留まらず、プランニングから携わる。目にしたことのある広告、ポスターを、誰もがファイルの中から見つけることが出来るだろう。しかし、その経歴を示すには、3つのファイルだけで、まだまだ足りない。

「ヴィジュアルデザインに興味を持ったのは、視覚を通じて物事を体系化して伝えていくところなんです」。

高校時代、自分の将来について考えた。幼いころから器用なたちで、飲み込みは早

いものの、その上への一段階が越えられず、両親からも「器用貧乏」を心配されたという。進路は、自分の趣味でもあった音楽の世界に決め、音楽編集を行う、音響エンジニアリングの学校へ進んだ。持ち前の器用さも手伝って、学生時代から音楽の仕事を少しずつ始め、さまざまな人、学生とも交流を深めた。音楽では、今でこそ当たり前だが、コンピューターを導入し、作曲、音響作品制作を行った。そういった中で、デザインを学ぶ学生に出会い、デザインが、コンピューターで音を組み立てるシーケンス作業に似ていることを知ったという。体系化していくこと、まとめていくことへの興味がデザイン道へと駆り立てた。

本校の美術学部デザイン科の学生として学び始めた。学生として学んだのはアナログ的な手法、卒業するころにデジタル化が始まる、そんな時代であった。そして、激動の10年の始まり、バブル崩壊の時代で

もあった。企業への就職を希望した。しかし、時代背景もあり、採用には至らず苦い経験を強いられた。就職活動時に常に指摘された、デザイン制作におけるコンピュータの習熟に対し、音楽制作で使用していたコンピューターをデザインにも対応できるように無理して一新した。しかし、それが転機となった。今まで多くの機材を使用しなければならなかった写真合成などの高度な作業が、コンピュータ1台で作成できる…。学生時代には体験していなかったが、いつしかその環境が揃っていたのだ。学んだことが、簡単にコンピューター上でシミュレーションできる！その当時学内で唯一学生も使用できるコンピューターを所有していたCAD室を借りるためにIDコースの和田教授に相談をし、いろいろなアドバイスをいただいた。程なくして使い方をマスターしてしまった。

当時の状況では、デザインの世界ではコ



a



b

c



d



e

■ 広告、SP

- a: トヨタ自動車株式会社
トヨタカーオーディオ
パンフレット
- b: トヨタ自動車株式会社
クラウンファンビション
チャナナビゲーション
ポスター
- c: トヨタ自動車株式会社
センターCNG仕
様車販売促進ポスター
- d: 株式会社パフファロー
エアステーション
雑誌広告
- e: LGジャパン
キュービー店頭ポスター



f



n



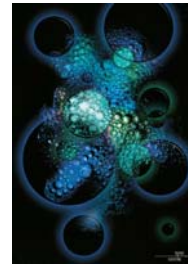
o



g



i



j



h



k



p

■ マルチメディア作品

- n: トヨタ自動車株式会社
システムディレクション
- o: トヨタ自動車株式会社
プレビス CD-ROM
- p: 名古屋芸術大学プロモーションツール

■ 展覧会出展作品

- f: 名古屋市主催 環境先進都市なごや！ポスター
- g: 名古屋港100周年記念イベント 出展作品
- h: YES-NOポスター展 出展作品
- i, j, k: 社団法人日本グラフィックデザイナー協会 出展作品
- l, m: 釜山デザインフェスティバル出展作品

社会活動

- (社)日本グラフィックデザイナー協会
H14.4~H15.10
イコクラダ世界会議実行委員(企画、IT、広報委員)
H15.7~
サンテアール講師
H19.4~
中部地区幹事
- 中部クリエイターズクラブ
H14.4~H15.10
国際デザインフェア 実行委員(IT、広報委員)
H17
CDアート日記を作ろう！愛知万博瀬戸会場
イベント講師
H14.4~ 実行委員(広報委員)、展覧会多数参加
- (社)日本サインデザイン協会
H19.4~
- 中部デザイン団体協議会
h18.8~
20周年記念事業実行委員として選出、H19より新規事業委員
(中部クリエイターズクラブより推薦)
- Peace creators in Nagoya
H11.8~
実行委員(情報管理)、LOVE&PEACE展参加
- (社)国際デザインセンター
H8.8, H9.8
夏期特別講座 コンピューター指導

ンピューターを扱える人材はまだ少なかった。しかし、皮肉なものでその技術を身につけたのは、就職活動に失敗した後だった。故郷の長野へ戻ることにした。ところが、これが幸いする。地元の印刷会社へポートフォリオの作製を依頼へ行くと、新しいことが出来る人材が来たという評価され、印刷の仕事を手伝い、瞬く間に、多くの仕事を頼まれるようになっていった。その上、映像制作会社から腕を見込まれ声がかかった。そこでショールームなどの展示物に始まり、映像編集のイロハも習得していった。「就職活動して駄目だったのが、いざ社会へ入ってみたいなら廻っていった。一つ、やりきることができれば、次の仕事へ繋がる。そのことがすごく感じられ、感動しました。」

そこからは、仕事、仕事、仕事…、文字通り、寝る間が無いほど仕事が重なった。アナログからデジタルへ置き換わっていく時代。どの仕事も、制作だけではなく、こ

れからの仕事のやり方、方法論をまとめていくような要素が加わった。仕事を始めて数年の若者が、ワークフローを作り、実験して新しい仕事の流れを考えた。メディア系の仕事が出来るということでオファーが増え、一つが完成するとさらなるオファー、メディア系なら広告もということ、プロフィールにあるようなマルチな活動領域を持つようになっていった。

意外なところから、更なる転機は訪れる。映像制作会社、広告制作会社、広告代理店、独立といくつのプロセスは、その都度、過労により体を壊してしまったからと笑う。「体力には、子どものころから自信があったんですけど、さすがに眠らないと駄目ですね(笑)」 過労がたたって入院、ベッドの上で「これまでやりたくてもやれなかったことをやってみよう」と独立を決意したという。「徹底的にやっちゃうんです。最後までやりきると、よくしたもので、次へ繋がる。

作ったものは残るし、次でも評価してくれるものなんです。現在では、デザインの技術的なことばかりがクローズアップされて、デザイナーがオペレーター化しているように思います。それよりも、会話であるとか、ベーシックなコミュニケーションがものすごく大切なんです。デザインが依頼されるときには常にさまざまな目的があります。その目的を理解し、効果的に実現するには円滑なコミュニケーションと、目的を効果的に伝達するためのさまざまな技術が必要になります。どちらが欠けていても効果的な制作物は出来ないんですよ。そのためには常にさまざまな角度から物事を分析し、その結果を実現できる技術も身につけていくことなんです。大変だけどあきらめたらおしまい。最後までやり抜くことです。自身の経験そのものが、行動規範となると話した。一段上へ、辛さを超えなければ見えない世界がある。

2009年6月～12月までの主な行事・イベントスケジュール

※予定は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

音楽学部

- 2009年度 入試教育懇談会
6月9日(火) 16:00～
名古屋マリOTTアソシアホテル
- オープンキャンパス
6月20日(土) 10:00～
本学東キャンパス
- 第11回ピアノコンチェルトのタベ
7月8日(水) 18:30開演予定
三井住友海上しらかわホール
- 夏期音楽講習会
7月28日(火)～7月31日(金)
本学東キャンパス
- 第11回ピアノサマーコンサート
8月4日(火) 17:30開演予定
電気文化会館ザ・コンサートホール
- オープンキャンパス
9月26日(土) 10:00～
本学東キャンパス
- 名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ
第28回定期演奏会
9月29日(火) 18:30開演予定
愛知県芸術劇場コンサートホール
- 名古屋芸術大学オーケストラ
第27回定期演奏会
10月15日(木) 18:45開演予定
愛知県芸術劇場コンサートホール
- 研究生特別演奏会
10月29日(木) 18:00開演予定
電気文化会館ザ・コンサートホール
- 第17回ピアノのタベ
11月5日(木) 17:30開演予定
電気文化会館ザ・コンサートホール
- 第32回定期演奏会
11月12日(木) 18:00開演予定
三井住友海上しらかわホール
- 第28回室内楽のタベ
12月10日(木) 18:00開演予定
熱田文化小劇場
- 電子楽器コース演奏会
12月11日(金) 18:30開演予定
熱田文化小劇場
- 冬期音楽講習会
12月24日(木)～27日(日)
本学東キャンパス

美術学部 デザイン学部

- アート&デザインセンターの展覧会
スケジュールは別途掲載しています。
- 広告表現論公開講座
タイノ サト一氏(映像作家)
6月3日(水) 16:30～
本学西キャンパス
- 2009年度 入試教育懇談会
6月5日(金) 15:00～
名古屋マリOTTアソシアホテル
- 広告表現論公開講座
副田 高行氏(アートディレクター)
6月10日(水) 16:30～
本学西キャンパス
- 名古屋芸術大学教員展
6月12日(金)～17日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター
- オープンキャンパス 入門編
6月14日(日) 10:00～
本学西キャンパス
- 広告表現論公開講座
小川 忠彦氏(グラフィックデザイナー)
6月24日(水) 16:30～
本学西キャンパス
- 模型で見るミュージックシーン
('09年度企画展)
7月10日(金)～29日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター
- オープンキャンパス 体験編
7月19日(日)・20日(月) 10:00～
本学西キャンパス
- 一日芸大生
8月2日(日) 10:00～
本学西キャンパス
- オープンキャンパス 進学編
9月27日(日) 10:00～
本学西キャンパス
- JAGDA新人賞受賞作家作品展2009
10月9日(金)～14日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター

人間発達学部

- 2009年度 入試教育懇談会
6月19日(金) 16:00～
名古屋マリOTTアソシアホテル
- オープンキャンパス
7月25日(土) 10:00～
本学東キャンパス

- オープンキャンパス
8月29日(土) 10:00～
本学東キャンパス
- オープンキャンパス
9月27日(日) 10:00～
本学東キャンパス

■ 芸大際(全学同日開催)
10月30日(金)・31日(土)
本学東西両キャンパス

名古屋保育・福祉専門学校

- 体験入学
6月13日(土)・27日(土)
13:00～
7月11日(土)・25日(土)
13:00～
8月8日(土)・17日(月)・18日(火)
10:00～(17日・18日は10:30～)
8月19日(水)・20日(木)・21日(金)
10:30～
9月5日(土)・19日(土)
13:00～
- 入学選考日
9月26日(土)
10月10日(土)・24日(土)
11月14日(土)・28日(土)
12月19日(土)
- 進学相談会
10月17日(土) 10:00～
11月7日(土) 10:00～
12月5日(土) 10:00～
- 学校祭
11月7日(土) 10:00～

幼稚園(クリエ)

- 親子ふれあいデー
6月6日(土) 9:00～
- 親子で吹奏楽を楽しもう
6月27日(土)
- お泊り保育
7月17日(金)～18日(土)
- 卒園生幼稚園で遊ぶ日
7月21日(火) 9:00～
- クリエ祭り
8月29日(土) 16:30～
- 平成22年度入園説明会
9月4日(金)

- 年長児美術学部ワークショップ
9月2日(水)～14日(月)
- おじいちゃんおばあちゃんと遊ぶ日
9月12日(土)
- 移動動物園
9月17日(木)
- 平成22年度入園願書受付
10月1日(木)
- 運動会
10月10日(土) 9:00～
- 秋のおんがくかい
11月14日(土)
- 発表会
12月12日(土) 9:30～
- クリスマス会
12月21日(月)

幼稚園(満子)

- 家族ふれあいの日
6月21日(日)
- 七夕まつり会
7月7日(火)
- お泊り保育
7月22日(水)～23日(木)
- 夏祭り
8月22日(土)
- 平成22年度入園説明会
9月17日(木)
- 平成22年度入園願書受付
10月1日(木)
- 運動会
10月4日(日)
- いもほり
10月20日(火)～28日(水)
- 作品展
11月7日(土)
- 秋の遠足
11月13日(金)
- クリスマス会
12月18日(金)
- おもちつき大会
12月21日(月)

編集後記

新型インフルエンザの発生から3ヶ月あまりが経ち、すでに日本国内にも多くの感染者が確認されています。本学にも新型インフルエンザ対策本部が設置され、教職員や学生に対し、感染者の発生した都道府県への旅行や研究出張などの自粛と、公務出張の中止が求められています。一見普段と変わらないキャンパスですが、なんとなく落ち着かない感じも見受けられます。

2009年度の本誌は、昨年度と同様、6月・10月・2月の年3回の発行を予定しています。通巻10号となった今回は、本学の「産学官連携活動」を特集しました。各学部で様々な活動が行われていますが、デザイン学部や音楽学部を中心に取材しました。

学内の教育活動のニュース&トピックスでは、音楽学部と人間発達学部は、新入生の合宿オリエンテーションを取り上げました。教職員と直接触れ合うことの出来る合宿は、新入生にとって大変有意義な体験となったようです。美術・デザイン学部は、前期交換留学生のウエルカムパーティーを取材しました。

本学グループ校の紹介コーナーは、今回はクリエ幼稚園を特集しました。芸術大学の附属幼稚園として、年間を通じて、大学と連携した様々な活動をしている園児たちの姿を追ってみました。

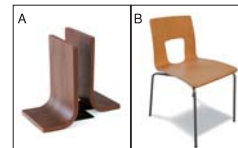
本誌へのお問い合わせやご意見は下記のメールアドレスまでお寄せください。
geibun@nua.ac.jp



大学基準協会の 認証評価に合格しました

本学は2006年4月に、認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。認定期間は、2006年4月から2011年3月までです。これによって、法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになります。

<表紙の作品>



本学産学官協同プロジェクト製品
A: (株) サイトウッド
『book stand No. BS-001WN』
B: (株) 天童木工
『T-3216 ファイネストラ スタッキングチェア』

発行: 名古屋芸術大学
編集: 全学広報誌編集委員会
制作: (株) クイックス
発行日: 2009年6月10日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 芸術文化交流室
〒481-8535
愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
電話 0568-24-0325
Fax 0568-24-0326
E-mail geibun@nua.ac.jp